


611.91  
M494m



00038646

2007



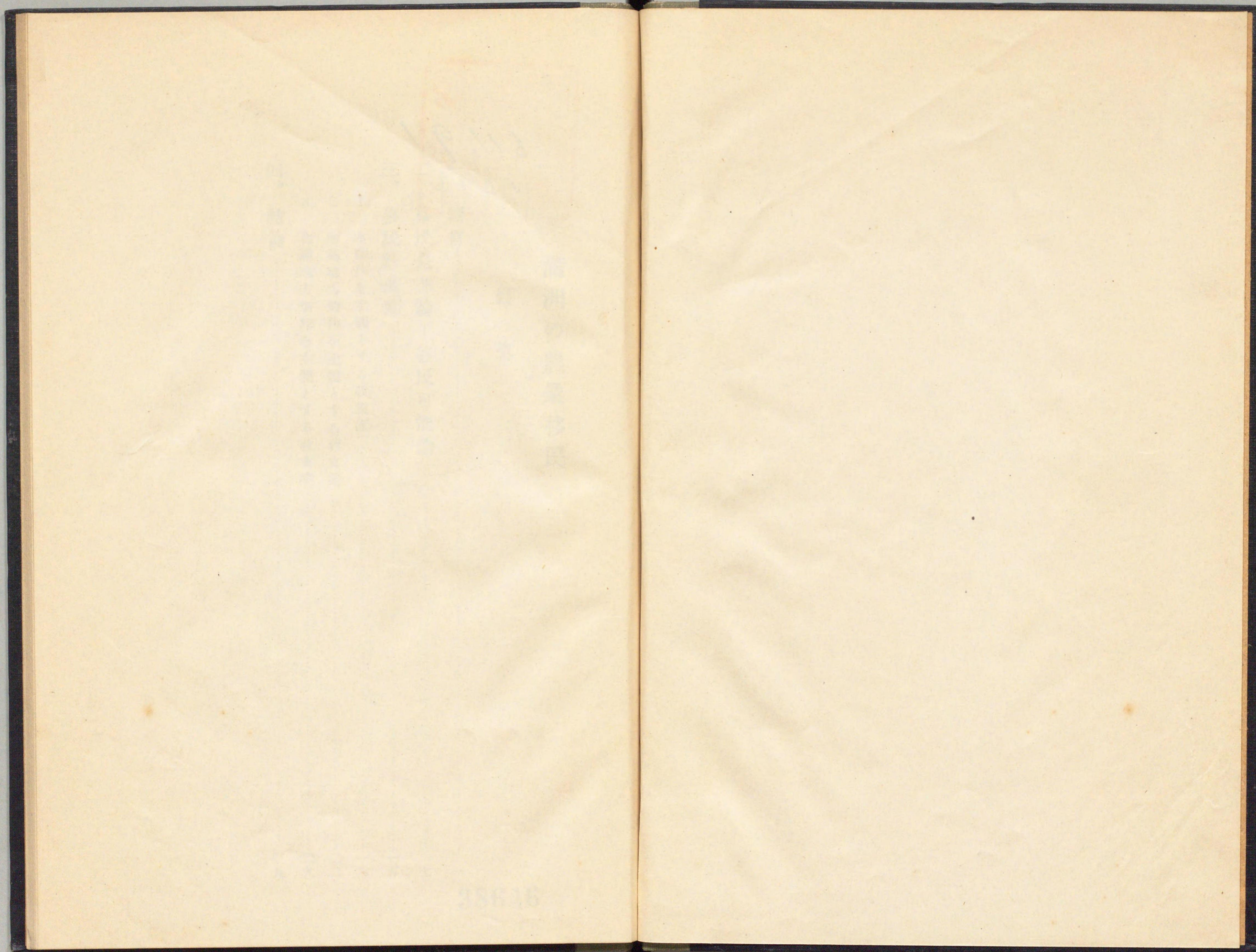
昭和七年四月

滿洲の農業移民

南滿洲鐵道株式會社地方部農務課

38646



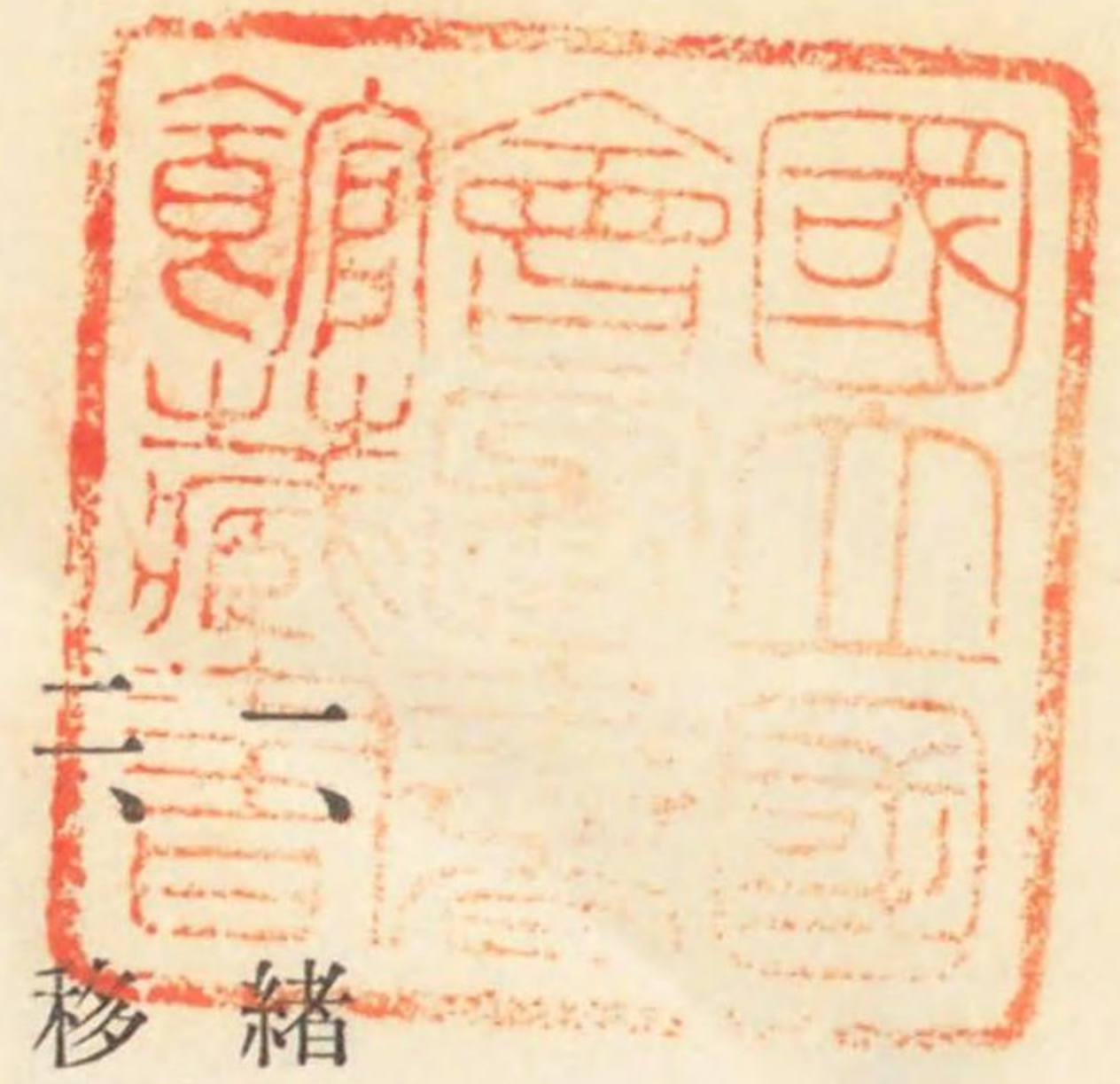




611.91  
17994m

# 滿洲の農業移民

## 目次



緒言……………一

移民是非論—移民可能論……………七

三、移民計畫案……………一五

    1 水稻作を主體とする收支案……………一六

    2 南滿地方畑作を主體とする收支案……………二二

    3 北滿地方畑作を主體とする收支案……………二九

四、結論……………三五

38646



## 凡例

- 一、本書は滿洲事變後に於ける滿洲農業移民に關する研究の一端である。
- 一、本問題の解決には舉國一致之に當るべき問題にして更に各方面に亘り専門的に慎重調査研究し其の結果に基きて實施さるべきものであるが、今や我國民の視聽は此の一點に集中し之に關する對策を要望すること急なるに鑑み其の参考に資する爲敢て上梓する所以である。
- 一、本書の筆者は農務課員長井祖平である。

昭和七年四月

地方部農務課

## 滿洲の農業移民

農務課 長 井 祖 平 稿

### 一 緒 言

滿蒙に於ける我特殊權益は日露の役に際し支那自體の爲又東洋平和の爲我國か同胞十萬の尊き生靈と二十億圓の巨額の國幣を費し露國の手より奪還返附せる代償として條約上正當に取得せるものにして之か得喪消長は爾來我國の政治、經濟、國防上至大の影響を及ぼすべき重大關係を有するに至つた。

元來我國は國土狹少、人口稠密且天然資源に恵まれず之を農業に就て見るに耕地少なく地力疲弊し既に未墾地の殘存するもの極めて僅少將來科學の進歩により增收を見越し得るとするも年々激増する人口に對し農産物を自給すること能はず食糧の供給すら不足すへきことは農産物の輸入が一箇年九億圓(自昭和元年至三年、三年間の平均額以下輸入年額を示すは總て右平均額の意)に達するに見るも又政府か年々莫大の犠牲を拂つて實施しつつある土地改良、耕地整理、水利其の他の農業施設か收穫量に於て幾分増加するも經濟的には却て農民を苦しむる結果に陥りつつあるに見るも瞭である。故に我國は最早や單なる農業國としては立行かざる現狀に在るものにして過剩人口の調節方法として當然移民政策の必要に迫られて居るも



のである。

然るに北米、濠洲、南阿等邦人の移民に適する地域は總て門戸を閉鎖せられ邦人の活動を許容しない南洋諸島は既に人口稠密に過ぎ大なる收容力なき現在我が移民の許容地としては僅かに南米の一部に局限せられ居るのみならず其の南米と雖も距離極めて遠隔なるを以て輸送上の不便不利は甚尠でない爲に從來實施し來れる我國の移民政策か人口問題解決策としても又他の意味に於ても大なる効果を納め得ざりしは誠に已むを得ざる處にして更に近來南米に於てすら往々排日の風潮を生しつつあるは甚だ遺憾なるか斯る時期に際し滿蒙は三千三百万町歩の可耕地中猶ほ千七百萬町歩の未墾地を有し且土地は概ね肥沃なるのみならず我特殊權益を有する地域なるを以て邦人の移植民政政策の對象地として最も好適する地域なりと謂ふべきである。

我國が單なる農業國として立行かざること並移民政策亦不振なる結果識者中には工業立國策を高唱する者尠なからず且當然の主張なりと雖も工業を以て國勢を維持するには製品の販路を確保すると共に其の原料の供給を容易ならしめねばならぬ。

然るに諸外國の實情を見るに近時事毎に關稅障壁を不當に高めつゝあり更に支那、印度等從來我商權下に在りし後進國も工業熱の勃興顯著なるものありて早晚國外販路の行詰りを生すべきを覺悟せねばならぬ歐米先進國の如く廣大なる領土特に植民地を有する國に於ては自國內の消費のみにても相當に工業を維持し得べきも斯る場合我國は最も難境に立つものにし

て從て我特殊權益地にして七萬七千餘方里の土地と三千餘萬人の人口を有し猶發展の餘地綽々たる滿蒙は我工業製品の輸出先として將來最も重要なる地域たることは我對滿輸出貿易か左の如き進展を示し來れるにも首肯し得る。

對滿輸出貿易額(朝鮮よりの輸出を含ます)

年次	金額 萬圓	年次	金額 萬圓
大正三年	三,二二二	同十一年	七,一四一
同四年	三,〇六四	同十二年	六,七九八
同五年	四,三七四	同十三年	六,三五九
同六年	七,二〇七	同十四年	八,八四九
同七年	六,九四六	昭和元年	一〇,三〇九
同八年	九,二〇六	昭和二年	九,九一四
同九年	八,二三九	同三年	一〇,九三二
同十年	七,一五六	同四年	一二,六五一

又之を工業原料に就て見るに前述せる如く我國は農産資源に乏しく工業原料及食糧品を自給すること能はざる結果年々左表の如き巨額の農畜産物を海外に仰きつゝありて我輸入貿易總額二十二億圓中農畜産物は實に十一億一千四百餘萬圓にしてその半額以上に達する狀況に在る。



農産物輸入貿易額(朝鮮を含まず)

品名	金額			三年間平均金額
	昭和元年	昭和二年	昭和三年	
小 米	五、〇六九	七、八八一	三、三六七	五、四三九
小 麥	九、三三五	五、三九三	六、七七九	七、一六九
小 綿	七二、五二八	六二、三九二	五四、九六一	六三、二九四
大 豆	四、九〇三	四、一二〇	四、九六八	四、六六四
大 芥	一、九二〇	一、八四六	一、七四八	一、八三八
大 麻、黃麻、マニラヘンブ	一、五二四	六〇一	四七四	八六三
葉 煙 草	八〇三	九四七	八二七	八五九
小 豆	六〇八	五五三	九三八	七〇〇
亞 麻、苧麻ラミ	五七三	五一一	六六八	五八四
棉 子	三九六	三四五	四九一	四一一
胡 麻	三四四	四〇一	四一九	三八八
高 粱	二五五	二七七	三九五	三〇九
豆 類(大豆、小豆、蠶豆、豌豆以外)	二一〇	二三三	三六七	二七〇
其他植物纖維	二〇一	二〇七	三六四	二五七
落 花 黍	二四八	二二八	二四七	二四一
玉 蜀 黍	一六八	二〇四	二七九	二一七

畜産物輸入貿易額

品名	金額			三年間平均金額
	昭和元年	昭和二年	昭和三年	
亞 麻 子	一三二	一五二	三〇四	一九六
生 絲	二〇八	一三八	二〇八	一八〇
大 麻 子	一九八	一五六	一五三	一六九
苧 麻 子	一二四	一四六	二二八	一六三
粟 黍 稗 子	六五	一三七	二三〇	一四四
荏 子	二二六	七三	一一七	一三五
胡 麻 子	二二六	一四一	一一一	一二六
ホ 子	一七六	一四五	五四	一二五
野 蠶 絲	七七	九〇	一三一	九九
豌 豆	九四	六八	一三五	九九
蠶 豆	八三	七三	七九	七九
甘 草	一〇〇、八三五	八七、六一一	八〇、一八五	八九、五四四
合 計	一、三二二	一、五二二	一、五三三	一、三六六



毛織物	牛皮	鳥卵	牛肉	牛脂	煉乳	骨粉	羊類	獸骨	鞣皮	靴底	豚皮	計	
二、九〇九	一、二五六	一、一三二	八三六	六三二	三六四	三七一	三一八	三四二	二四七	一七五	二〇〇	七九	二一〇、七〇九
三、四一七	七九八	九九八	七九六	五〇三	三七五	三四五	二八三	二八六	二七三	一六〇	一一一	六六	二二、九三四
三、〇八九	八二一	六九六	六九七	五四一	三八三	三四一	三四五	二八八	二四九	一二四	一三九	三九	一一、一五〇
三、一三八	九五八	九四二	七七六	五五九	三七四	三四九	三一五	三〇五	二五六	一五三	一五〇	六一	二一、九二七

六

然れとも各國共に之亦漸く工業原料たる資源を獨占壟斷せむと企圖する傾向あるを以て我國の如き農産資源に乏しき國に在りては將來何時工業原料の獲得に困難を感じるに至るやも計り知れぬのである、加之に前表農産物資の輸入可能なりとするも素よりこは平和商戦裡に限らるべきものにして一朝有事の際は果して之を何處に求むべきや思を此處に致せば農産資

源の確保は實に國家人民の生死存亡に關する重大事項なりと言ふべきである。

而も幸にして滿蒙は土地廣大にして且概ね肥沃なるのみならず前表輸入農畜産物は殆んど生産供給可能にして即ち之を輸入品中の王座を占め年輸入數量十一億三千六百十九萬斤金額六億三千二百九十三萬圓に達する棉花に就て謂ふも耕作面積二十萬町歩生産額二億斤に達せしむるを得べく又年輸入數量一億五千七百〇九萬封度金額九千九百八十五萬圓に達する羊毛の如きも在來蒙古種三百五十萬頭を改良増進するに於ては飼育頭數七百萬頭生産羊毛量五千萬封度たらしむること敢て難事ではない此の外農産物としては米、小麥、大豆、小豆、馬鈴薯、麻類、油料子實類、煙草、忽布、柞蠶等の工業原料及食料品並玉蜀黍、高粱、ルーサン等の飼料作物を又畜産物としては牛肉、牛皮、牛脂等何れも有望にして且充分に供給し得るを以て假りに各國に於て農産資源を獨占し若は戦時他よりの輸入不能に陥ることありとするも我國は滿蒙の農産資源を確保し得は工業原料又は食料品の缺乏を憂ふるの必要なかるべく滿蒙は我工業原料及食糧品供給地としても極めて重大使命を有する土地なることを知り得るのである。

### 一 移民是非論 — 移民可能論

滿蒙か我國に取り經濟的生命線たる地位を有すること前述の如くにして而も此の土地に對し我國か特殊權益を有することは甚た好都合なりと雖も素より滿蒙は特殊權益地たるに止ま



り我國の領土に非ざるを以て將來該權益を確保し我工業製品の輸出先たると共に工業原料及食糧品の供給地たる地位を失はざらしめむと欲せば今日政治的にも經濟的にも確固たる實力を樹立し置くことが肝要である、而して實力を樹立するには單に資本の投下又は企業施設のみにては永久的の期待を懸け難く根強き人命而も相當數の存在に依り初めて資本も事業も活くべきものにして這般の滿洲事變を招來するに至れる原因の大部分は畢竟我國が日露の戦後徒らに紙上の權益を恃み邦人在住者數の増殖を怠りたるに基くものと斷するも過言ではない故に在滿邦人數を増殖する爲移民を奨励することは此の際最も焦眉の急に屬するものである殊に移民は其の習慣上亦嗜好感情上多くの場合母國の製品を使用愛好するものにして移民の増加は又母國商品の輸出を擴大せしむべく且之等商品の普及は再轉して移民地一帯に於ける先住民一般の嗜好をも刺戟して其の需要を喚起するものなるを以て移民は明に母國商品販路擴張の足場たる重要役目を果すものと云ふべく又母國に必要な工業原料及食糧品に就ても邦人移民が直接其の生産に參與することは之か商權を把握するに好都合なるを以て此の意味に於ても邦人の移殖は無意義でない況んや一方國防上よりするも滿蒙は其の位置我國に隣接する重要地域に當り斷然忽視を許さざる地域なるを以て此の國防第一線下に相當多數の邦人を移殖定住せしめ置くことは軍事戰略上の觀點より見て更に重要な意義を保持するものである。

然るに從來の如く所謂滿鐵中心主義を採りては木に縁りて魚を求むるに等しく邦人の増加

は望み得ぬ蓋し在滿邦人の現狀に就て之を見るに邦人數二十萬人中其の半數は滿鐵社員、關東廳吏員及其の家族にして然らざる者も其の多くは之等俸給生活者を相手とする商人なるか元來俸給生活者は定着性を有せざるを以て絶えず浮動し一度職を失へば直に母國に引揚ぐるは當然にして定着性なき俸給生活者に依りては根底ある實力を樹立し又は人口の増加は到底期待し得べきものでない之を在米邦人に比較するに米國に於ける邦人が幾多の壓迫を受け乍ら尙且二世三世に至る迄繁榮するに拘らず在滿邦人が幾多爲政者の援助あるに拘らず今日尙振はざる原因は彼に在りては其の大部分が土地を相手とする農業移民なるに反し此にありては在住民の大部分が俸給生活者なるに職由するものと云ふべく故に在滿邦人數増殖策として農業移民を奨励することは絶對的緊要事にして若し爲政者にして財政難を口實とし農業移民策の實行を躊躇し爲に在滿邦人數の増加不能とならむか支那人側は事變直後に於てこそ我威武に恐れ神妙に應對すべきも時日の経過に依り再び我權益を無視するに至るべきことは敢て過去の歴史を繙く迄もなく彼等國民性に徴し火を見るよりも瞭かなる所にして特殊權益は再び紙上の空權に歸し遂に噬臍の悔を残すに至るであらう。

我政府は日露の役干戈收まるや滿蒙經營の爲卒先滿鐵會社を創設し滿蒙開發上の大使命遂行の任に衝らしめたるか滿鐵は營利會社たる組織と複雑龐大なる職責に災され營業收支に左右せられて稍もすれば鐵道偏重主義に陥り其の負荷せられたる資源開發の使命は兎角等閑に附し來れる憾がないではない特に邦人移殖に就ては當然全力を盡すべくして盡さざりし傾向



あるは甚だ遺憾である。其の原因は一鐵道會社の片手間仕事たるに因ること勿論なるか一面一部有識者中に移民不能論を唱ふる者ありて會社幹部か之に動かされたることも重大原因たりしは争ふへからざるところである。而して其の論據とする處は種々あるも要するに先住民たる支那人の生活程度低きこと、體質強大にして勞働力に富めること、從來邦農の成功者少きこと等にあるもの様である、然し此の説たるや未だ認識の足らぬ處がある邦農の移住は必らずしも不可能でない勿論一部學者か稱ふる移民の耕作面積を自家勞力にて自作し得る面積に限定し三町歩内外を耕作する徹底的自給自足を主義とする純然たる自作農たらしむへしとの論は少くも滿洲の現状に於ては行ひ難き處であらう即ち(一)滿洲には勞銀安く勞働力に富む支那人の對抗あるを以て有賃勞働者雇傭の絶對的禁止は邦人に對し一日一人當りの生活費金二、三錢にて足り従て勞銀も一日二、三十錢に過ぎざる支那人と同一程度迄價値の低下を要求するに等しく加之支那農民には一錢一厘の教育費、衛生費を要せざるに反し邦人にとりては教育費、衛生費等は絶對必要費なるを以て假りに日常生活費を支那人程度迄引下くるとするも支那人以上の収入を得る必要がある爲に自然耕作面積を或程度迄擴大し且賃銀低廉なる支那人を利用するは已むを得ざる處である、(二)滿洲は時候及地理的關係上二毛作の見込なく又生産物が餘り高價を望み得ず且有畜農業にて飼料を自給する必要上一般に粗放農法行はれ俄に集約農法を採ること不可能にして之を支那人農家に就て見るも所謂自作農と稱する者も普通二十町歩内外を耕作し大農家中には五、六十町歩に達する者が尠くない故に生活程度

高き邦人か如何に生活程度を低下し有利なる新作物を栽培するも三、四町歩と云ふか如き小面積にては收支償ふものでない、(三)自給自足主義は古來農家の遵奉し來れる鐵則なるも今日は總ての産業か極端に分業化したる結果農家と雖も生活用品、事業用品中金錢にて購入するの外なく又は之を有利とする者が尠くない故に自給自足は主義としては必要のことに屬するも絶對的に之を實行することは不可能である、(四)日本にては小農は農業以外に日傭等の勤勞収入の途あるも滿洲にては其の望は少い従て三、四町歩の土地を耕作する自作農は將來著しく農産物の價格騰貴せる場合は兎も角差當りは其の望みなきものにして此の點に於ては邦人移民不能論者の云ふ處は誤りなきものの様である。然し邦人の進歩せる頭腦を以て(一)農法を改善し(二)農作物を改良し(三)新規有利の作物を取入れ(四)經營を多角形化し(五)可成自給自足主義を採る等事業經營を合理化するに於ては邦農の移植は困難なりとするも望なきものではない即ち。

(一) 農法の改善に就ては滿鐵に於ても目下畜力農法と機械農法の優劣、農具の改良、灌漑農法の採用、病虫害驅除豫防法等より各作物の施肥、畦幅、播種期、播種法等の栽培法に至る迄試験研究にして既に種々有益なる試験を完了し其の内高粱、粟の黑穗病の豫防法の如きは從來二割乃至三割に達せる病害を極めて僅少の費用にて完全に防除し得る方法を發見せるか之等新農法を移民に先づ採用せしむるに於ては餘程有利に經營し得べく。



(二) 農作物の改良に就ては滿鐵に於て大豆、粟、高粱、小麥、棉花、水稻、陸稻其の他幾多の作物に就き試験育成中にして其の内既に大豆は二割以上粟は四割内外を増收し得る改良種を育成したるか斯る改良種の採用は之亦移民を有利に導くべく。

(三) 新作物の採用に就ては滿鐵は既に苹果、米國種黄色煙草、ルーサン、草花種子等の栽培を在滿邦農に奨励し相當の成績を納めたるか更に水稻、棉花等の栽培、養蠶を奨励する外新に有望なる新作物を研究奨励するに於ては農業を或程度迄は最も邦人の得意とする集約化せしめ得べく。

(四) 事業經營の多角形化に就ては有利なる新作物程危険率も亦大なるを常とするを以て此の危険率を少なからしむると共に冬期長く且耕作の全然不可能なる滿洲に於ては農閑期を利用する爲作物の種類を多く取入ると共に副業に力を注ぎ特に乳牛、肥臘牛、綿羊の飼育、養豚、養鶏、養兔、養蜂等の家畜を飼育し且相協力して之等畜産品の加工を爲すに於ては一層事業の經營有利なるべく。

(五) 自給自足主義に就ては日本農村の疲弊せる最大原因か此の主義の行はれざるに基因するものにして昔時の農家は事業用品は素より飲食、着物、履物に至る迄手製の自給品を用ひたるに今日の農家は肥料農具は勿論日常生活品迄も殆んど金錢にて購入するに至りたる結果其の經營困難となりたるものなるも總ての事業か分業化したる今日獨り農業のみ絶對的に自給自足を行ふことは不可能である、殊に滿洲に於ては曩にも述べたる如

く自家勞力以外多少の有賃勞働者の雇傭は已むを得ざる處にして自給自足の實行は更に困難である、然し農業は他の事業に比し比較的收利少なき事業なるを以て滿洲に於ても出來得る限り自家勞力を利用して有賃勞働者の雇傭を少なくし又極力生活程度を低下して生活品の自給を計り特に農家にとり最大の負擔たる肥料は家畜を飼育して之を自給し家畜の飼料は自家産の農産物又は其の加工副産品を用ゆる等組織的自給自足に努むることが肝要である。

斯て初めて邦人移民は支那人に對抗して堅實なる發展を期し得るのである。

滿蒙移民の能否に關し實例に就て之を見るに今日邦農事業者少きことは事實なるも其れは畢竟今日迄邦農に對する環境不良なりしと當局者の邦農移植に不熱心なりし結果である。仰も日露戦後數年間は滿洲には利潤多き事業多く農業の如き利潤少なき仕事を省みる者が稀であつた。(滿鐵は創業後間もなく其の附屬地を農耕地として低廉なる地代にて貸付くることとしたるに拘らず邦人の借受希望者なく爲に已むなく之を支那人に貸付けた其の後大正初年頃財界不況となるや漸く志農者現はれたるも間もなく世界戦争勃發して世間は好景氣時代現出し爲に折角農業に志したる者も再び農業に對する眞劍味を喪ひ其の多くは借受耕地を支那人に轉貸し然らざる者も種々の事業に没頭して農業を顧みず遂に再起し得ざる痛手を蒙るに至つた而して大正九年の財界パニック以來世の不況深刻となるや又もや志農者増加せるも其の多くは失職者にして農業に對する經驗に乏しき爲經營法拙劣にして且最近數年間は農産物暴



落概して平時の價格の三分の一位に下落す)時代に遭遇し事業經營を困難ならしめたのである。加之滿鐵附屬地は狭少にして多くの農家を收容すること能はざるを以て農業を經營するには支那人の土地を租借するの外なきに支那側は條約を無視して之を肯せず斯る理由に依り邦農の發展を阻まれたるものにして邦農の少きは決して移民不能論者の云ふか如き支那人との對抗不能なるか爲ではない現に少數乍ら數百人の邦農か定着し居るに見るも邦人の移植可能なるを證し得るであらう。邦人の移植か可能なりや否やは滿鐵か大正三年以降四年間に亘りて附屬地内に試みたる獨立守備隊滿期兵農業者設定の經營實蹟を驗討すれば最も明瞭である。即ち滿鐵は右期間中除隊兵に對し一人當り十二町歩乃至二十四町歩の土地と資金三百圓を貸付け總員三十四名の農家を設定したるか其の内十七名を減し今日殘存するものは半數に過ぎざるを以て此の點より見るときは甚だ不成績の如く見えるも一步進んで其の原因を闡明すれば事業半途退耕の理由は。

- (イ) 眞面目に農業に従事せず耕地を支那人に轉貸して地代の鞘を利得し生業の見込立たざる爲土地を沒收せられたる者三名
- (ロ) 農業には相當専心せるも經營拙劣なりし爲收支償はず自ら農業を放棄せる者二名
- (ハ) 滿鐵の市街計畫に依り耕地を回收せられたるもの一名
- (ニ) 南滿製糖會社及帝國製糖會社の耕地買収に際し讓渡權利金に眩惑せられ耕地を讓渡せる者六名

(ホ) 農業經營に専心せず質商、藥種業を兼營せる爲匪賊に狙はれ横死せる者一名

(ヘ) 好景氣時代に當り株式其の他特産仲買に手を染め失敗し再び農業者として起ち能はざるに至りしもの二名

(ト) 事業經營順調なりしも中途に於て不幸病死せる者二名

にして不能論者の云ふか如き原因による退耕者を強て求むるも前掲(ロ)二名に過ぎない、且當時は未だ有利なる新作物も耕作法も發見せられず又土地の特殊事情にも通せざりし結果にして殘存せる十七名か今日農家として自立し中には相當富裕の生活を營みつつあるを見れば邦農移植の可能なるを知るであらう。

### 三 移民計畫案

上來記述せる處に依り滿蒙に對する邦農の移植か決して不可能に非ざることを了解し得るであらう、然らば移民は如何なる方法に依り如何なる計畫に基き事業を經營するを適當とするや所要資金は幾何を要するや事業目論見の當否は直に事業の成否を決定すへき重要性を有するを以て左に卑案を開陳する。

而して滿洲に於ても日本内地に於けると同様最も有利なる作物は水稻である、水稻は支那人か其の栽培に適せざること反當り收量多きこと及比較的價格高きこと等で他の作物に比し甚だ有利なるも北滿特に哈爾濱以北は時候の關係上其の栽培に適せず又南滿地方と雖一年に



五千戸七千戸と云ふか如き多數の移民か悉く水稻を栽培するに於ては直に供給過剩に陥る恐れがある仍て(イ)水稻作を主體とするもの(ロ)南滿地方畑作(ハ)北滿地方畑作の三案に就き之を説明することとする。

1 水稻作を主體とする收支案

(1) 水稻作を主體とする經營に在りては左の如き作物及家畜を取入れたる多角的有畜農業を適當とす。

- 水稻 五町歩
- 桑又は果樹 一町歩
- 蔬菜類 一反歩
- 普通作物(大豆、粟、高粱、玉蜀黍) 一町八反歩
- 豚 蕃殖牝豚四頭
- 鶏 産卵鶏五五羽

右の外場所によりては養蜂を取入るること。

(2) 固定資本

(A) 土地資本

種	目	數	量	單價	金額	摘	要
土地	購入費	八	町歩	二五〇〇圓	二、〇〇〇〇〇	一反歩は宅地に充當す	
造田	費	五	町歩	三〇〇	一五〇〇〇		
灌排水	工事費	同		一〇〇〇	五〇〇〇〇		
計					二、六五〇〇〇		

(B) 其の他の固定資本

種	目	數	量	單價	金額	摘	要
住宅	室	一	棟	—	三〇〇〇〇	支那式家屋	
倉庫	兼苦力舍	一	棟	—	一五〇〇〇		
厩	舍	一	棟	—	五〇〇〇		
鶏舍	舍	一	棟	—	五〇〇〇		
井	戸	五	戸共用	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一部五〇戸共同設備間口五〇〇間奥行三〇	
土	壁	一	部	一五〇	四八〇〇	間六〇〇間	
種	豚	蕃殖牝	四頭	一五〇〇	六三〇〇		



種別	反當	總數量	單價	金額	摘	要
種排	一斗	五石	七〇〇	三五〇〇		
灌排	二〇錢			一〇〇〇		
桑苗	一〇〇本	一、〇〇〇本	〇二	二〇〇〇		
蔬菜種	五圓			五〇〇		
蔬菜劑	五〇錢			五〇		
在來作物種	二〇錢			三六〇		
肥役				一三九〇〇	反當り水稻、桑一圓、蔬菜一〇圓	
勞賃		一、二七〇人	三〇	三五一〇〇	在來作物五〇錢、桑一圓、蔬菜三〇人桑	
耕牛飼料			四〇〇	四八〇〇	在來作物五〇錢、桑一圓、蔬菜三〇人桑	肥豚二頭、牝四頭、哺育豚四八頭
豚飼料			三〇	一五三七五		
初生雛		一〇〇羽	二〇	二〇〇〇		初生雛時代一〇〇羽
雞糞				三三六〇		産卵時代三〇羽

支	出
勞働收入	三〇
副業及雑收入	一、四七二・七〇
計	一、五〇二・七〇

品名	段當收量	總收量	單價	金額	摘	要
稻	二、八石	一四〇石	六・五〇	九一〇〇〇		
養蠶	八〇貫	四、〇〇〇貫	〇三	一二〇〇〇		
蔬菜				五〇〇〇		
在來作物	一、三石	一三、四石	四・五〇	一〇五・三〇		
在來莖	一〇〇把	一八、〇〇〇把	七〇	一二六〇		
哺育仔豚賣却		二二頭	二・五〇	五五〇〇	生産仔豚四八頭内斃死四頭と見 て残り四四頭の二分の一賣却	
雞卵	六〇箇	一、八〇〇箇	〇二	三六〇〇	三〇羽六ヶ月	
雞雄		三五羽	一五	五二五		
尿糞				四八・五五		

(C) 事業收支		初年度	
收	入	計	牛具
		一、五〇二・七〇	一
		二〇〇〇〇	一
		五〇〇〇	頭式
		一、二八一・〇〇	
			糶摺は共同設備



種別	反當	總數量	單價	金額	摘要
種別	一斗	五石	七〇〇	三五〇〇	
種別	二〇錢			一〇〇〇	
種別	五圓			五〇〇	
種別	五〇錢			五〇	
種別	二〇錢			三六〇	
種別				一三九〇〇	
種別				三五〇〇	
種別				四八〇〇	
種別				二三五〇五	
種別				三〇〇	
種別				四八〇〇	
種別				二三五〇五	

二一

〔牡〕〇二頭、牝四頭、哺育豚四八頭、肥豚二頭

支出	金額	摘要
種別	三五〇〇	
種別	七〇〇	
種別	一〇〇〇	
種別	五〇〇	
種別	六〇〇	
種別	六〇〇	
種別	三〇〇	
種別	一、九一四・八五	

品名	段當收量	總收量	單價	金額	摘要
稻	三石	一五〇石	六・五〇	九七五・〇〇	
養蠶				七〇〇・〇〇	
蔬				四〇〇・〇〇	
在來作物	一・三石	二・三石	四・五〇	一〇五・三〇	
莖				一四〇・〇〇	
哺育仔豚		二二頭	二・五〇	五五〇・〇〇	
肥豚		二〇頭	一五・〇〇	三〇〇・〇〇	
雞		三五羽	一・五〇	五二五・〇〇	
雞		二五羽	三・〇〇	七五〇・〇〇	
雞		二〇〇人	三・〇〇	六〇〇・〇〇	
副業及雜收入				一、九一四・八五	

〔前〕年生二五羽@六〇〇個  
若雌三〇羽@六〇〇個

二年度	收入	金額	摘要
原價償却費		一八・五五	〔土地〕以外固定投資金一・一八
諸稅公課		四〇・五〇	
生活費		三〇〇・〇〇	
雜費		三〇〇・〇〇	
差引		一、三〇八・五〇	
計		一、六四二・〇〇	

二〇



差引益金	計	雜費	生費	諸活公課	原價價却費	鷄飼料	初生雛
					五〇錢		
							一〇〇羽
							二〇
							二〇〇〇
							四九・三五
							一八・五五
							四〇・五〇
							三〇〇・〇〇
							三〇〇・〇〇
							一、三八五・五五
							五二九・三〇

(初生雛時代) 〇〇羽、産卵鶏前  
年生二五羽、若雌三〇羽

南滿地方畑作を主體とする收支案

(1) 南滿地方畑作に在りては左の如き作物及家畜を取入れたる多角的有畜農業を適當とす

- 煙草 又は果實、草花種子、忽布、薄荷、水稻、但し煙草以外の作物のときは多少面積を増加するを要す 一町歩
- 棉花 奉天以北は棉花に適合せるを以て適宜他の作物に代ふること此の場合には多少面積を増加するを要す 二町歩
- 蔬菜 二反歩
- 落花生(奉天以北は大豆) 一町歩
- 陸稻 一町歩

在來作物(高粱、粟、玉蜀黍) 二町七反歩  
 ルーサン 一町歩  
 桑 一町歩  
 豚(又は肥臘牛、養兔、綿羊) 蕃殖牝豚四頭  
 鶏 産卵鶏五五羽

右の外場所によりては養蜂を取入るること。

- (2) 固定資本
- (A) 土地資本 土地購入費一〇町(一反歩は宅地に充當す)反當り三〇圓 三、〇〇〇圓
- (B) 其他の固定資本

種目	數	量	單價	金額	摘	要
住宅	一	棟		三〇〇・〇〇	支那式家屋	
蠶室	一	棟		二〇〇・〇〇		
乾燥室	一	棟		二五〇・〇〇		
倉庫兼苦力舍	一	棟		一五〇・〇〇		
厩舍	一	棟		五〇〇・〇〇		



種別	反	當	總	數	量	單	價	金	額	摘	要
陸來作物	一、七石	一〇匁	一七石	一〇匁	一〇	一〇〇〇	八五〇〇				
在來作物	一、三石	一〇匁	一七石	一〇匁	一〇	一〇〇〇	一五七・九五				
莖類	二、五〇〇匁	一〇匁	二、五〇〇匁	一〇匁	一〇	一〇〇〇	三五〇〇				
ルサ	二、五〇〇匁	一〇匁	二、五〇〇匁	一〇匁	一〇	一〇〇〇	三七・五〇				
養蠶	二、二頭	一〇匁	二、二頭	一〇匁	一〇	一〇〇〇	五五〇〇				生産仔豚四頭内斃死四頭と見 て残り四頭の二分の一賣却
哺育仔豚	七二箇	一〇匁	一、八〇〇箇	一〇匁	一〇	一〇〇〇	五六〇〇				三〇羽六ヶ月
鶏卵	三五羽	一〇匁	三五羽	一〇匁	一〇	一〇〇〇	四八・五五				
鶏糞	二〇〇人	一〇匁	二〇〇人	一〇匁	一〇	一〇〇〇	六〇〇〇				本人及家族自家労働
勞働	二〇〇人	一〇匁	二〇〇人	一〇匁	一〇	一〇〇〇	四八・五五				
尿糞	二〇〇人	一〇匁	二〇〇人	一〇匁	一〇	一〇〇〇	六〇〇〇				
副業及雑収入	一、六三七・二五	一〇匁	一、六三七・二五	一〇匁	一〇	一〇〇〇	一、六三七・二五				
計											

苗床材料中數年間使用し得るものは其の平均に依る

品名	段當收量	總收量	單價	金額	摘	要
葉煙草	三六貫	三六〇貫	一・五〇	五四〇〇		
同層葉聯	五貫	五〇貫	四〇	二〇〇〇		
棉花	一六貫	三二〇貫	一・〇〇	三二〇〇		
落蔬	四〇圓	三、五〇〇斤	二・二〇	七七〇〇		
花生	三五〇斤	三、五〇〇斤	二・二〇	七七〇〇		

(3) 事業收支  
初年度  
收入

計	農具	種豚	耕馬	士壁	井戸	鶏舎	豚舎
一	一	一	一	一	一	一	一
種畜五戸共用式	蕃殖牝四頭	一	一	一	一	一	一
一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇
一、六三三・〇〇	二〇〇〇	六三〇〇	七〇〇〇	五〇〇〇	二〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇



二年度

收入

品名	反當收量	總收量	單價	金額	額	摘	要
葉煙草	三八貫	三八〇貫	一・五〇	五七〇〇〇			
屑葉	六貫	六〇貫	四〇	二四〇〇〇			
棉	一六貫	三三〇貫	一〇〇	三三〇〇〇			
落花生	四〇圓			八〇〇〇			
陸稻	三五〇斤	三五〇〇斤	二・二〇	七七〇〇			
在來稻	一七石	一七石	五〇〇	八五〇〇			
莖	一・三石	三・五〇一石	四・五〇	一五七・九五			
ル	六〇〇疋	六〇〇〇疋	一・五〇	九〇〇〇			
養蠶				七〇〇〇			
哺仔				五五〇〇			
肥豚				三〇〇〇			
鷄雄		二五羽	三〇	七・五〇			
鷄卵		三五羽	一・五	五・二五			
鷄		三・三〇個	二〇	六六〇〇			

前年生二五羽@六〇ヶ  
若雌三〇羽@六〇ヶ

品名	反當收量	總收量	單價	金額	額	摘	要
煙草及蔬菜藥劑費	一五斤	三〇〇斤	一・五	四・五〇			反當り煙草十錢蔬菜五十錢
棉花種子	三五斤	三五〇斤	二・二〇	七・七〇			
陸稻種子	六升	六斗	五〇〇	三〇〇			
在來作物種子	二〇錢			五・四〇			
ル	二・五疋	二・五疋	一〇〇	二五〇〇			
桑	一〇〇本	一〇〇〇本	二〇	二〇〇〇			
肥				二二八・五〇			
勞役		九九五人	三〇	二九八・五〇			
耕馬飼			五〇〇	六〇〇〇			
豚飼				一五三・七五			
初生		一〇〇羽	二〇	二〇〇〇			初生時代一〇〇羽產卵時代三圓の10%
雛飼				三三・六〇			
原價償却				一六三・七五			
諸稅	五〇錢	一〇町一反 大人二八 小人一八		五〇・五〇			
生活費				三〇〇〇			
雜費				三〇〇〇			
差引計				一、五四七・二〇			
利益				九〇〇・五〇			



3

北滿地方畑作を主體とする收支案

(1) 北滿地方畑作に在りては左の如き作物及家畜を取入れたる多角的有畜農業を適當とす

- 大豆 八町歩
- 玉蜀黍 六町歩
- 粟 六町歩
- 小麦 六町歩
- 燕麥 一町歩
- ルーサン 三町歩

差引益金	雜計	生計	諸活費	原價公課費	雞飼料	初生雛料	豚飼料
						100羽	
						200	
						13505	
						2000	
						4935	
						13750	
						5050	
						3000	
						3000	
						155800	
						52950	

壯肥豚 〇・二頭 北四頭 哺育豚 四八頭  
 頭 胎豚 前年生 二〇頭 當年生 二二頭  
 初生雛 時代 一〇〇羽 產卵雛 前年  
 生 二五羽 若雌 三〇羽

種別	反	當總數量	單價	金額	摘	要
煙草種子		10匁	100	1000		
苗床及乾燥材料		13圓		13000		
蔬菜種子		5圓		10000		
煙草及蔬菜藥劑費				2000		反當り煙草一〇錢、蔬菜五〇錢
棉花種子		15斤	15	450		
落花種子		三五斤	220	770		
陸稻種子		六斗	500	3000		
在來作物種子				540		
勞役賃				29850		
肥馬料				21350		
耕馬料				6000		

(在來作物の内一町歩は煙草の後作に付無施肥)

支出	副業及雜收入	勞働收入	尿糞類
		200人	
			5480
			6000
			3000
			208750



豚 蕃殖牝二頭  
 鶏 産卵鶏五五羽  
 乳牛 三頭  
 綿羊 牝羊三〇頭

右の外場所によりては忽布、馬鈴薯を栽培す又土地の總面積は四〇町歩なるも内一〇町歩は宅地及放牧地とす。

(2) 固定資本  
 (A) 土地資本  
 土地購入費 四〇町歩 反當り五圓 二、〇〇〇圓  
 (B) 其他の固定資本

種	目	數	量	單價	金額	摘	要
住宅	住宅	一	棟	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	支那式家屋	
倉庫	倉庫	一	棟	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	同	
厩舎	厩舎	一	棟	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	同	
豚舎	豚舎	一	棟	五〇〇〇	五〇〇〇〇	同	
鶏舎	鶏舎	一	棟	五〇〇〇	五〇〇〇〇	同	
羊舎	羊舎	一	棟	一五〇〇〇	一五〇〇〇〇	同	

(3) 事業收支  
 初年度

品名	段當收量	總收量	單價	金額	摘	要
井戸	一		二〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇		
壁	四		一〇〇〇〇	四〇〇〇〇		
馬	一	七〇〇〇	二八〇〇〇	二八〇〇〇〇		
驢	一		一一〇〇〇	一一〇〇〇〇		
豚	二	一五〇〇	三三〇〇〇	三三〇〇〇〇	蕃殖牝二頭牡は五戸にて一頭を共用	
緬	二	一二〇〇	三八四〇〇	三八四〇〇〇	牝羊三〇頭牡羊二頭	
農具	三		三五〇〇〇	三五〇〇〇〇		
計			二、二七〇〇〇	二、二七〇〇〇		

品名	段當收量	總收量	單價	金額	摘	要
大豆	一石	八〇石	五〇〇	四〇〇〇〇		
黍	一〇石	六〇石	四〇〇	二四〇〇〇		
粟	一〇石	七二石	三〇〇	二一六〇〇		
小麥	一石	六〇石	七〇〇	四二〇〇〇		
燕麥	二・五石	二五石	二・五〇	六二・五〇		



品名	二年度		収入											
	品名	段	差引損失	雑計	原價却	生活用費	公課	家畜管理勞賃	羊飼料	鶏飼料	初生雛料	豚飼料	役畜飼料	勞役賃
大豆	一石	一					二〇錢							五人
蜀黍	八〇石	一												一、五〇〇人
玉蜀黍	七二石	一												五〇〇羽
大豆	八〇石	一												五頭
蜀黍	四〇〇〇	一												三〇〇
玉蜀黍	四〇〇〇	一												五〇
大豆	二八八〇〇	一												七五〇〇〇
蜀黍	四〇〇〇〇	一												一八〇〇〇
玉蜀黍	二八八〇〇	一												七〇〇〇
大豆	四〇〇〇〇	一												二〇〇〇
蜀黍	二八八〇〇	一												二七〇〇
玉蜀黍	二八八〇〇	一												八六・四〇
大豆	四〇〇〇〇	一												一四〇〇〇
蜀黍	二八八〇〇	一												八〇〇〇
玉蜀黍	二八八〇〇	一												三〇〇〇〇
大豆	四〇〇〇〇	一												二二・七〇
蜀黍	二八八〇〇	一												三〇〇〇〇
玉蜀黍	二八八〇〇	一												二〇三・七九一
大豆	四〇〇〇〇	一												二〇三・七九一
蜀黍	二八八〇〇	一												一四七・八六
玉蜀黍	二八八〇〇	一												一四七・八六

(夏期六ヶ月間を放牧す(飼料は冬期六ヶ月分))

種別	支出		支出										
	種別	段	ル1サン種子	燕麥種子	小麥種子	粟種子	玉蜀黍種子	大豆種子	鶏卵	鶏雄	羊毛	勞働收入	副業及雑收入
ル1サン種子	二五	五											
燕麥種子	七	五											
小麥種子	六	五											
粟種子	六	五											
玉蜀黍種子	四	五											
大豆種子	五	五											
鶏卵	六〇	個											
鶏雄	一、八〇〇	個											
羊毛	六	封度											
勞働收入	二〇〇	人											
副業及雑收入	七、五〇〇	疋											
ル1サン種子	七、五〇〇	疋											
燕麥種子	七、五〇〇	疋											
小麥種子	七、五〇〇	疋											
粟種子	七、五〇〇	疋											
玉蜀黍種子	七、五〇〇	疋											
大豆種子	七、五〇〇	疋											
鶏卵	七、五〇〇	疋											
鶏雄	七、五〇〇	疋											
羊毛	七、五〇〇	疋											
勞働收入	七、五〇〇	疋											
副業及雑收入	七、五〇〇	疋											

(粟種は堆肥に使用するものと見  
て收入を見積らす  
生産仔豚の四頭中斃死見込二頭  
糞残りの二頭の二分の一を畜の尿  
糞より自家用肥料に供するを以て  
收入を見込みます)



大豆種子	種別	支	出	當	總收量	單價	金額	摘	要
	副業及雜收入						二、四四三・五五		
	勞働收入				二〇〇人	五〇	一〇〇〇〇		
	仔羊毛		七封度		二四頭	八〇〇	一九二〇〇		
	羊				一九二封度	四〇	七六・八〇		(次年度よりは本年生仔羊の毛二頭分@六封一四四封度を増す 評價格)
	廢				二五羽	四〇	七・五〇		
	拔				三五羽	一五	五・二五		
	鷄				三、三〇〇個	〇二	六六・〇〇		(前年生二五羽@六個、若雌三〇羽@六個)
	肥				一〇頭	一五〇〇	一五〇〇〇		
	哺				一頭	二・五〇	二七・五〇		
	莖						一五〇〇〇		
	ル				一八、〇〇〇疋	一・二〇	二一六〇〇		
	燕				二五石	二・五〇	六二・五〇		
	小				六〇石	七〇〇	四二〇〇〇		
	粟				七二石	三・五〇	二五二・〇〇		
	玉蜀黍								

差引益金	雜計	生活費	公課	原價却	家畜管理勞役賃	羊飼料	鷄飼料	初生雛料	豚飼料	役畜飼料	勞賃	燕麥種子	小麥種子	粟種子	玉蜀黍種子
			二〇錢								五人	七升	六升	六合	四升
		大人 小人			親羊 仔羊						一、五〇〇人	〇・七石	三・六石	〇・三六石	二・四石
		一人 一人	四〇町步		三三頭 二四頭					五頭	一、五〇〇人	〇・七石	三・六石	〇・三六石	二・四石
					月	月									
					四〇	四四・五				三〇〇	五〇	二・五〇	七〇〇	三・五〇	四〇〇
					一四四〇〇	一四四〇〇				一八〇〇〇	七五〇〇〇	一七五〇	二五・二〇	一・二六	九・六〇
					二二一七〇	二二一七〇				一一七・五三	一八〇〇〇	一七五	二五・二〇	一・二六	九・六〇
					八〇〇〇	八〇〇〇				二〇〇〇	一八〇〇〇	一七五	二五・二〇	一・二六	九・六〇
					三〇〇〇	三〇〇〇				二〇〇〇	一八〇〇〇	一七五	二五・二〇	一・二六	九・六〇
					二〇八一〇四	二〇八一〇四				二〇〇〇	一八〇〇〇	一七五	二五・二〇	一・二六	九・六〇
					三六二・五一	三六二・五一				二〇〇〇	一八〇〇〇	一七五	二五・二〇	一・二六	九・六〇

四 結 論

右私案に依れば水稻作を主體とする經營案に在りては土地資本金二六五〇圓其の他の固定



資本金一、二八一圓運轉資本事業支出の八〇%金一、〇四六圓計金四、八七七圓を南滿地方畑作經營案に在りては土地資本金三、〇〇〇圓其の他の固定資本金一、六三三圓運轉資本金一、三〇九圓計金五、九四二圓を又北滿地方畑作經營案に在りては土地資本金二、〇〇〇圓其の他の固定資本金二、二一七圓運轉資本金一、五一二圓計金五、七二九圓を要する尤も該案は大體に於て現在の農畜産物の價格を基礎とせる理想案なるを以て時と場所と事情によりて幾分は投資金額を減し得らるべく且將來農畜産物の價格著しく騰貴するに至れば更に有利なる經營法を採用し得るであらう、而して移民に關し特に注意を要するは滿蒙は他の植民地とは事情を異にし生活程度低く勞銀安く加之に勞働力旺盛なる支那農民の供給極めて豊富にして從來も山東、河北、河南等の各省より渡滿する支那人勞働者は一ヶ年數十萬人に達し歳に依りては百萬人を突破せることあるを以て將來も該移民は絶へざるものと思はるるに依り滿蒙は永久に農業勞働者の不足を告ぐることはないであらう、從て邦農かアメリカ移民に於て實行せるか如き渡航後數年間は農業勞働者として勤勞し資金を貯蓄して獨立營農する方法は滿蒙に於ては實行不能である、又滿洲には邦農に對する農業金融機關を缺如し居り僅に東拓か確實なる不動産を擔保とし評價額の六〇%内外の金融を爲しつゝあるも其れすら年一割以上の高利を徴せらるゝを以て農業資金として借入るゝには不適當である、從て移民は渡滿に際し豫め前顯所要資金を準備するを要す然るに極端に疲弊困憊せる内地農民に取りては五千圓は愚か五百圓の調達すら容易ではないであらう、元來移民は之を他の例に就て見るに人口不足の未開地に行はる

るものにして所要土地の如きは無償又は極めて低廉なる價格にて入手し得るを普通とするに拘らず滿蒙は千數百萬町歩の未墾地あり且地價も日本内地に比すれば甚だ低廉なりとは謂へ耕地を取得するには相當の代償を要し加之に前述の事情にて移住後勤勞して資金を貯蓄するの途なきを以て充分なる政府の援助なき限り邦人移民は不可能に近く滿蒙移民問題の惱は實に此の點に存する、故に政府は宜しく移民に對し固定資本の五〇%一、九一五圓乃至二、三〇六圓及渡航費三〇〇圓計二、二一五圓乃至二、六〇六圓の補助金を交付し且補助金を差引たる所要資金の融通を計る爲此の際一大特殊會社の設立を爲すを要する、尤も之に對しては國家財政窮迫の折柄政府の犠牲餘りに大なるを理由として實行不可能を主張する者あらむも實行の能否は要するに政府の決斷如何に懸るものにして諺にも千戸の家あれば共喰を可能たらしむとの言葉もあり一定人口の存在は更に一定人員の寄生的存在を可能ならしむるものにして吳の海軍工廠又は八幡の製鐵所設置か吳及八幡をして今日人口十數萬人の大都市たらしめたるを思へば滿蒙に何萬戸かの農民移住は更に何萬戸かの邦人寄生を可能ならしめ餘慶の及ぶ所甚大なるものあるべく之を日本農村の失業者對策より論ずるも相當救濟的の効果を及ぼし思想上に與ふる影響も尠少でないであらう、況んや邦人の移植により我國防に對する不安を輕減し得は從て我兵備をも減し得べきを以て今日の犠牲は必らずしも永久の犠牲に非ざるのみならず屢述の如く滿蒙は我生命線たり之か權益の確保は我國の存亡に關し權益を確保するには邦人移民か絶對的緊要事項たる以上曩に帝都震災の復興に際し多大の犠牲を吝まざりし政府



及國民は大決斷を以て移民政策を確立するの要がある。

滿蒙に於ける我特殊權益を保持するに幾何の移民を必要とするやは見方により種々意見あるべきも曾て後藤伯か滿鐵總裁就任當時二十年間に五十萬人の邦人を定住せしめんと洩らされたることありと聞く人口數の著増せる今日に於ては此の數字は少きに失する感なきにあらざるも農業移民以外に工業労働者も増加すべく且移民に伴ふ小賣商人、俸給生活者其の他の寄生的存在を考慮するときは今後二十年間に十萬戸五十萬人の農業移民を實施せば先づ目的を達するに庶幾しと云ふべきである。

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な文字列が続く）

昭和七年四月二十五日印刷  
昭和七年四月三十日發行

編輯兼發行者 南滿洲鐵道株式會社地方農務課 香村岱 二

印刷者 大連市大江町二番地 荒木猪象

印刷所 大連市大江町二番地 株式會社 日清印刷所

發行所 南滿洲鐵道株式會社



CL  
NO. 1131

民國二十二年五月二十二日發行

中華民國二十二年五月二十二日發行

中華民國二十二年五月二十二日發行

中華民國二十二年五月二十二日發行

中華民國二十二年五月二十二日發行

中華民國二十二年五月二十二日發行

中華民國二十二年五月二十二日發行

中華民國二十二年五月二十二日發行

中華民國二十二年五月二十二日發行



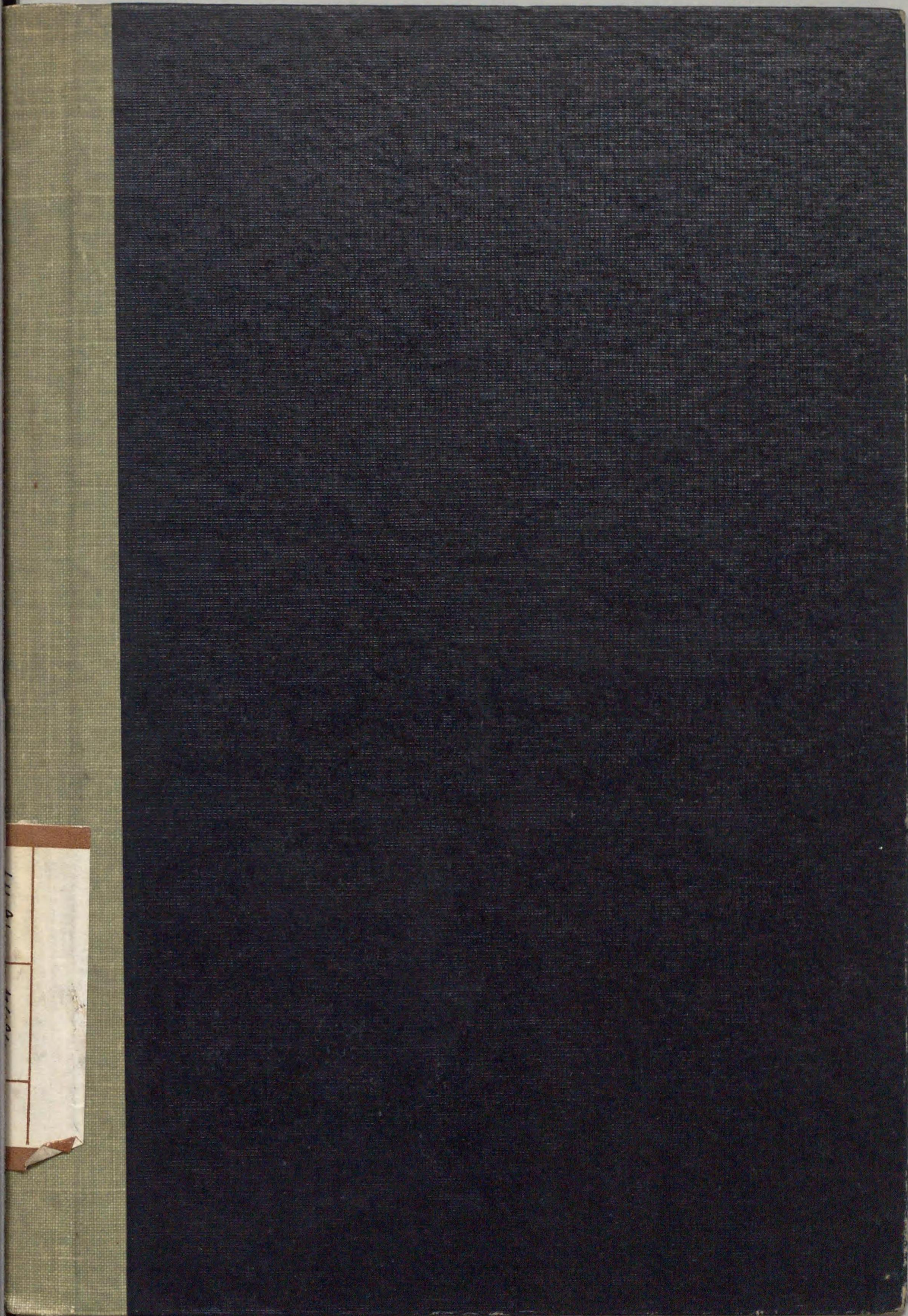
GANNANDO-SHOTEN  
KANDA TOKYO  
店書堂南巖

CL  
NO. 1131



16.10.8  
0.509





111 A  
111 A  
111 A